



主な記事 2面 第29回自治労文芸賞

# じちろ

自治労中央機関紙  
発行所  
全日本自治団体労働組合  
東京都千代田区六番町1  
TEL 03-3263-0273  
FAX 03-5210-7422  
定価一部30円1年間900円  
(組合員の購読料は)  
組合費の中に含む

## 鬼木誠組織内国会議員 新年の決意 皆さんの奮闘や努力に しっかりと国会の場で応えていきたい



組織内国会議員の鬼木誠です。皆さんからのご支援をいただき国会議員となって約半年、初めての通常国会がまもなく始まります。

一つの視点は、審議される一つひとつの法案の中で、地方自治体の充実・強化の観点や働くものの目線で捉え直し、その課題を指摘していくことだと思えます。その積み重ねによって、自治体や公共サービス、さらに

今春には統一自治体選挙が行われます。この数ヶ月、国会という場に身を置き、「数は力」をまざまざと感じています。地方議会も含めて、仲間を増やしていくことが本当に大切です。立憲民主党は一昨年の衆議院選挙と昨年の参議院選挙で議席を

減らしました。国会の中でも議席を減らしてきたことの影響が出てきています。やはり、地方における議員や仲間をどう増やしていくのかということが、国会での議席を増やしていくことの大前提にあると思います。地域の中で信頼される政党として住民の皆さんの支持を得ることができないのに、国会で議席を増やせるはずがない。本当にそう思います。

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

一つひとつの法案の中に地方自治体の充実・強化や働くものの観点を

公共サービスの現場は今、恒常的な人員不足を何とかしなければ支えきれない。そのような皆さんの切実な声に溢れています。人員不足、さらには自治体としてのさまざまな課題を政策・制度にいかにつけていくのか、具体的にどう行動していくのか。

春の統一自治体選挙で仲間を増やすことが本当に大切

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

現場の声・課題意識の共有、意見交換の場をこれからも

## 岸真紀子組織内国会議員が訪韓

# 韓国 消防公務員の団結権等回復後の実態をヒアリング



岸真紀子参議院議員(左)は、消防庁保健安全担当室(右上)や公労総消防労働組合(右下)などを訪問した

岸真紀子組織内国会議員等は2022年12月20〜23日、韓国の消防公務員の団結権等回復後の実態を把握するため、韓国・ソウル市および世宗市にてヒアリング調査を実施した。

組織内国会議員の岸真紀子参議院議員、政策協力国会議員の大島敦衆議院議員、助言者として申龍徹(シン・ヨンチョル)山梨県立大学国際政策学部総合政策学教授のほか、公務労協から森永栄事務局長と吉澤伸夫相談役、自治労から担当職員が参加した。

韓国の消防職員は、労働三権のすべてが認められていないが、韓国では2021年7月に公務員労働組合法が改正され、消防公務員の労働基本権のうち団結権

## 新採対策会議 ~WITHコロナの加入促進・取り組み方法を議論~

# 青年層のマインドを踏まえた取り組みを

自治労は1月13日、単組・県本部を対象とした新規採用職員の対策会議をウェブ方式で開催し45県本部1社保労連267単組から480人が出席。模擬加入説明会を披露するとともに、青年層から見た新採対策などを提起・議論した。

冒頭、外山律子強化拡大局長が「新採対策の現状と課題」を提起。「前年の振り返りや前年加入者への聞き取りなどに加え、好事例の横展開をはかる中で、4月までのスケジュールを決定してほしい。新採説明会の持ち方や配付資料の作成などの工夫も含め、WITHコロナに即した取り組みを役員同士のコミュニケーションの下で行っていく」と呼びかけた。

模擬加入説明会では林鉄兵強化拡大局長が説明者となり、青年層のマインドを踏まえた組合紹介などの方法や、加入者獲得のポイントなど

あけましておめでとうございます

ろうきんアプリ

残高・明細のご確認や  
税公金のお支払い等  
便利な機能が盛りだくさん!

ろうきんアプリ



### 第29回自治労文芸賞・受賞者

#### 散文の部

入選 「彼女を先生と呼ぶ」 松本 優 兵庫県本部・神戸市従  
 佳作 「野犬狩り」 長谷川和正 兵庫県本部・兵庫県職労 退職者  
 「椿の花」 鈴木照夫 東京都本部・自治労都庁職 退職者  
 奨励賞 「四十年目の途中下車」 藤波直樹 神奈川県本部・横浜交通労組

#### 詩歌の部

○詩 審査員 山田隆昭さん  
 入選 なし  
 佳作 「満色」 東野 正 岩手県本部・岩手県職労 退職者  
 「歪んだボール」 齋藤新一 栃木県本部・宇都宮市職労 退職者  
 「宴」 恩田一葉 北海道本部・美瑛町職  
 奨励賞 「命の一本の糸」 牧本敏秀 広島県本部・広島県職労

○短歌 審査員 森川多佳子さん  
 入選 「組合活動」 \*桐原則介 福井県本部・全国一般福井地方労組  
 佳作 「日常」 米谷 茂 大阪府本部・泉佐野市職 退職者  
 「都鳥」 鈴木照夫 東京都本部・自治労都庁職 退職者  
 奨励賞 「焼餅焼く」 山崎俊定 東京都本部・自治労都庁職 退職者  
 「春夏秋冬」 山田裕子 富山県本部・市立砺波総合病院労組

○俳句 審査員 館野 豊さん  
 入選 「良夜」 瀬角龍平 鹿児島県本部・垂水市職労 退職者  
 佳作 (無題) 保久上光昭 鹿児島県本部・垂水市職労 退職者  
 奨励賞 「ウクライナ起つ」 \*桐原則介 福井県本部・全国一般福井地方労組  
 (無題) 南出孝次 三重県本部・松阪市職員組合

○川柳 審査員 島田駱舟さん  
 入選 「空を見つめて」 \*柳谷たかお 青森県本部・外ヶ浜町職 退職者  
 佳作 「スーパームーン」 綿谷夕雨子 青森県本部・今別町職 退職者  
 「人・影・哀」 田中良積 北海道本部・釧路市役所ユニオン 退職者  
 奨励賞 「暮らし」 \*桐原則介 福井県本部・全国一般福井地方労組  
 「湯鉄砲」 山崎俊定 東京都本部・自治労都庁職 退職者

#### 子どもの部

○散文  
 「さると木」 中泉杜佑真 大阪府本部・自治労東大阪公共サービスユニオン 家族

○詩歌  
 俳句・川柳 (無題) 中島和奏 新潟県本部・長岡市職労 家族  
 俳句 「なつのおもいで」 傳田みれい 長野県本部・長野県職労 家族  
 \*はペンネーム

# 第29回 自治労文芸賞

## 散文の部

◎ 入選

### 『彼女を先生と呼ぶ』

松本 優さん (神戸市従)

○ 佳作

『野犬狩り』 長谷川和正さん (兵庫県職労 退職者)

『椿の花』 鈴木照夫さん (自治労都庁職 退職者)

○ 奨励賞

『四十年目の途中下車』 藤波直樹さん (横浜交通労組)

第29回自治労文芸賞 (2022年) は、最終選考会での審査の結果、兵庫県本部・神戸市従の松本優さんの『彼女を先生と呼ぶ』が、「散文の部」の入選に輝いた。

国一般福井地方労組)、俳句は瀬角龍平さん(鹿児島・垂水市職労退職者)、川柳は柳谷たかおさん(青森・外ヶ浜町職退職者)が入選した。

また、「子どもの部」には3人の組合員家族からの応募があり、奨励賞を贈呈した。

今回の文芸賞を含む各種コンクールは応募期間を2022年8月末まで延長。32作品が寄せられた「散文の部」の最終選考は、11月18日に行った。

第29回自治労文芸賞の入賞作品が決定した。小説など「散文の部」では、兵庫・神戸市従の松本優さんの「彼女を先生と呼ぶ」が初の入選となった。

佳作は、長谷川和正さん(兵庫県職労退職者)と鈴木照夫さん(自治労都庁職退職者)とベテランが受賞。奨励賞は若手の新人・藤波直樹さん(横浜交通労組)が受賞した。

「詩歌の部」では、詩は前回に続き入選はなし。短歌では桐原則介さん(全

自治労は表現の宝庫だ  
 いろんな職場、職種があって、それを包括している労働組合があるので、いろんな体験とか経験、生活、いろんな人との出会いがある。そういうのが作品に出てほしいというふうに思っています。作品の中に、DVの問題とか解離性障害というテーマも出てきています。表現の宝庫だと思っんですね。自治労文芸の発展を祈念しています。



鎌田 慧  
社会派ルポライター。近著に「言論の飛躍」「叛逆老人は死なず」など

選考会に行けずZoom参加となりました。コロナの時期で自治労の組合員の方たちは大変忙しかつたと伺っています。でも40歳から81歳までの多彩な作者が書いてくださってうれしく思います。私は、短歌という、言葉を捨てるということをしなきゃいけない文学に関わっていますので、散文はともうらやましい気がします。



道浦母都子  
歌人。歌集「無援の抒情」で第25回現代歌人協会賞を受賞。近著にエッセイ「たましいを運ぶ船」

### 散文の部 審査員総評

『安定した基盤』が自治労文芸の特徴

小説は生活の基盤がないか不安定なところから生まれるものだと思うのですが、自治労文芸に限っては、公務員の方が多いため生活基盤が変わらなことが前提の中で何かを書き始めるところが本場に特徴的なことで、ほかでは得難いものだと思います。今回コロナ禍というのもあって、フレッシュな感じがしました。



増田みず子  
86年「シングルセル」で第14回泉鏡花文学賞受賞。近著に「小説」「理系的」

今回初めて参加し、いい場所だなと思いました。「文章にしたい」と思うことってというのは、文章でないと踏み込んでいけない領域があって、普通に喋る中では言えない、文章でないと表現できないものが、自分の中にある、ということだと思えます。そういうことにぜひチャレンジしていただきたいと思っています。文章でしか表現できないものがある



佐川光晴  
2000年「生活の設計」で第32回新潮新人賞を受賞。元屠場労働者。「牛を屠る」「おれのおばさん」「満天の花」など

### 代表幹事講評



佐藤環樹 自治労文芸代表幹事

### 新人登場に期待高まる

今回、入選と奨励賞を新人が受賞しました。これが治労文芸No.30は2月上旬から楽しみです。「ベテラン」に発行予定です。電子書籍も健在ですが、臆するところもなく、多くの人がもつと書いていただき、自治労お読みください。さい。

